



Myopine



本製品は Atropine (アトロピン) 0.01% 配合の

お子様用視力回復用目薬です

Myopine (ミオピン) とは、小児期の近視の進行を軽減させることを目的にアトロピンを 0.01% 配合させた点眼薬で、Singapore National Eye Centre (SNEC: シンガポール国立眼科センター) の下記の研究に基づいて開発されています。[1\)](#)

ミオピンの特徴

- 副作用がほぼ皆無の良好な近視制御薬です
- 近視の進行を平均 60% 軽減させます
- 目つきに悪影響をさほど及ぼさず、更にサングラスもほぼ不要です
- 目の遠近調節機能 (短焦点機能) に殆ど影響を与えません
- 近見視力の正確さに殆ど影響を与えず、更に進行性眼鏡も不要です
- 毎日一滴点眼するだけの、非常に簡単な治療法です
- 各容器は両眼用に 1 ヶ月間使用可能です
- 本製品は GMP (医薬品製造管理および品質管理基準) 準拠の薬品会社により製造されています

ミオピンは近視の症状を有しているお子様 (6 歳から開始可能) への処方が推薦されており、処方の際は最低 2 年間使用を継続させて下さい。



近視の進行を制御することが大切な理由

近視は特にその症状が深刻な場合回復不能な視力喪失、即ち黄斑変性症、網膜剥離、または緑内障に発展する可能性があります。最近の研究によりますと、東アジア諸国、即ちシンガポール、台湾、香港、及び日本での近視の有病率及びその重度は上昇する傾向にあることが指摘されており、具体的には60～80%の青年が近視を患っており、15～20%が重度であることが確認されています。本傾向は各種メディアによる視力への悪影響、更に財政的なストレスの増加に起因すると考えられています。

(参考文献)

1)

Chia A, Chua WH, Wen L, Fong A, Goon YY, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: changes after stopping atropine 0.01%, 0.1% and 0.5% (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン 0.01%、0.1%、及び 0.5%を点眼終了後の変化). *Am J Ophthalmol.* 2014 Feb (眼科: 2014 年 2 月); 157 (2) :451 – 457. e1. doi: 10.1016/j.ajo.2013.09.020

Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% doses (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン 0.5%、0.1%、及び 0.01%を点眼した場合の安全性及び効能(進行度 2 の近視治療にアトロピンを使用した場合)). *Ophthalmology.* 2012 Feb (眼科: 2012 年 2 月); 119 (2) : 357 – 54. doi: 10_1016/j.ophtha.2011.07.031.

Tong L, Huang XL, Koh AL, Zhang X, Tan DT, Chua WH. Atropine for the treatment of childhood myopia: effect on myopia progression after cessation of atropine (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン点眼終了後の近視進行に対する効能). *Ophthalmology.* 2009 Mar (眼科: 2009 年 3 月); 116 (3) : 572 – 9. doi : 10.1016/j.ophtha.2008.10.020 Epub 2009 Jan 22,

Chua WH, Balakrishnan V, Chan YH, Tong L, Ling Y, Quah BL, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia (小児近視治療用アトロピンについて), *Ophthalmology.* 2006 Dec (眼科: 2006 年 12 月); 113 (12) 2285 – 91. Epub 2006 Sep 25.

ミオピン点眼薬が選択される理由

アトロピン配合点眼薬は、近視の進行を退化させる点で統計的にも臨床的にも顕著な効果が確認されている唯一の治療法です。アトロピン 1%は 1960 年から近視治療用に使用され続けています。

しかしながらアトロピン 1%は下記のような不快な副作用を引き起こします。

1. 瞳孔の拡張に起因する目つきの悪さ及び光恐怖症
2. 目の遠近調節機能(短焦点機能)の低下を理由に近くの方がぼやけて見え、読み書き等近くを見る必要がある作業に困難が生じる
3. アレルギー性結膜炎及び皮膚炎

ミオピンはアトロピンの局所点眼を超低濃度から処方することにより最適な近視制御を実現するので、近視の進行スピードを効果的に抑え、同時にアトロピン 1%による不快な副作用を回避します。

ミオピンの安全性について

シンガポール国立眼科センター(SNEC)の研究によりますと、アトロピン 0.01%の効果は点眼 2 年後に出現します。[2\)](#)

1. アレルギー性結膜炎及び皮膚炎は一切引き起こしません
2. 眼圧(IOP: Intraocular eye pressure)に影響を与えません
3. 白内障を形成しません
4. 点眼終了後も目の遠近調節、または恒久的な瞳孔の拡張機能が喪失することはありません
5. 電気生理学上の網膜機能に一切影響を与えません



(参考文献)

2)

Chia A, Chua WH, Cheung YB, Wong WL, Lingham A, Fong A, Tan D. Atropine for the treatment of childhood myopia: safety and efficacy of 0.5%, 0.1%, and 0.01% does (Atropine for the Treatment of Myopia 2) (小児近視治療用アトロピンについて、アトロピン 0.5%、0.1%、及び 0.01%を点眼した場合の安全性及び効能(進行度 2 の近視治療にアトロピンを使用した場合)). *Ophthalmology*. 2012 Feb (眼科: 2012 年 2 月); 119 (2) : 347 – 54, doi: 10.1016/j.ophtha.2011.07.031.

当製品に関するお問い合わせは、下記までご連絡下さい

Eye-Lens Pte Ltd

8 Eu Tong Sen Street #13-99, Singapore 059818 (シンガポール)

